2018－19年度EMC事業通信　No.9

2018－19年度EMC事業主任　小野　勅紘（六甲部西宮）

NGT98キャンペーン期末セール

西日本区の皆様、今期のEMC事業に対して多大なご支援を賜りまして、ありがとうございました。一応ここに期末キャンペーンを終了することにいたします。皆さま果たして充分に、N賑やかな例会に、G元気で若々しく、T楽しいお友達を98人お招きできましたでしょうか。

この課題は今後ともますますお進めいただき、次期の任を担当される、牧野篤文次期EMC事業主任（京都部京都トップスクラブ）が提唱されている「満足度」への橋渡しが出来ましたら幸いです。

2度目のお努めでしたからもっと以前の経験を生かせるものと思っておりましたが、年を明けてからの多忙さは一層厳しいものがありました。ましてや集計に遅れを生じてしまい皆さまにご迷惑をお掛けすることになりました。大変申し訳ありませんでした。EMC事業は華やかな表の「陽」の活動と、集計という地道な「陰」の部分の両面が混在して時間だけが無情に過ぎていきます。その結果が西日本区大会での報告と表彰という最終的な纏めに繋がっていきます。結果的にはどのように活動しても最終の集計結果というものは無情です。期末になると「えっ！あの人が・・・え～～」と絶句するような退会の場面が沢山出てきます。それは何度も経験しますが、無味乾燥したあの「一身上の都合」という一言が目に焼き付いています。むしろ「高齢」とか「健康上の理由」、「転勤」などの方がずっと気が楽です。なぜなら「贈る言葉」があるからです。「療養なさって復帰されたらまたお会いしたいなあ」とか転勤しても「また戻ってきて下さい」あるいは「転勤先のワイズで活躍して下さい」と言えるからです。武田鉄矢の歌ではありませんが、「贈る言葉」のないお別れほど辛いものはありません。

今期もまたそういう「恐怖の期末」を迎えます。前期は－80からのスタートでした。それがやっと3月末で追い越したと思ったら、4月から6月のこのシーズンになると再び巡ってくるのです。EMC事業主任というお役目は、徳川家康※ではありませんが、この精神的な重荷を背負っていくことのフラストレーションを年間1人で背負っていくことになります。精神的に強くなければ務まらないことも事実ですが、喜びもそれに以上にあるのです。新しいメンバーを迎えてバッジを装着する時の開放感、新しいクラブがチャーターする時の栄えある舞台。このために1年間があるといっても過言ではないでしょう。是非そんな舞台に呼んで下さい。（※「人生とは重き荷を背負って坂道を登るが如し。」家康」

次期を担っていただく牧野主任にはこういった重荷を背負っていただくのですが

是非、皆様の部やクラブの入会式にお呼びして下さい。ただ遠方の場合は、主査さんにそのお役目をお願いすることもありますが、出来ればEMCシンポジウムや、周年記念例会、部会などに併せて計画いただけばいいでしょう。また皆様からの集計表は遅れきみにならないよう、タイムリーに送っていただけるようお願いいたします。今期の6月分は例会が終わったばかりですから、まだ1／3しか届いていませんが、4－5月分の未着の部もあります。よろしくお願いいたします。

朝消えて　夕べ二重(ふたへ)の　虹の橋　　直行

この拙句は、2012年8月ノルウェーの第3の都市スタバンゲルで開催された第70回国際大会に参加した時に詠んだものです。朝起きると朝もやの中にホテルの窓にぼんやりした虹が掛かった。しかし、10分もしたら朝日が指してきて虹は消えてしまった。その日は昼ころからバスで少し離れた蝋人形館にある懇親会場に向かった。山の裾野をぐるぐる回って、開けた場所に通り掛かったら大きな岩が山からゴロゴロ落ちていて道を塞いでいた。少しずつバスを幅寄せしてやっと通りぬけたがそれに約20分位掛かった。反対側の山肌に目をやると見事な二重の虹が掛かっていた。夕日と山影の微妙な角度での位置関係でしか現れない虹であろう。あまりの美しさに何度もカメラに収めたが、後で写真を見てみるとあの立体的な美しい虹はついぞ写真ではお目には掛れなかった。やはり実景に勝るものはないものだ。

スタバンゲルでは故成瀬晃三理事（中部名古屋クラブ）とルームメイトになり行動を共にした。早くホテルに着いておられた理事はシャワーを浴びておられたようで、私が遅れてホテルに入った時にびっくりしてそのまま飛び出て来られて、逆に私もびっくり。それが成瀬理事との初めての出会いであった。（裸の付き合い？）大会期間中に、理事はご自身でも年間主題に掲げておられた「満足度」について熱く語っておられた。「ワイズで満足度が得られないから辞めてしまうのだ」と。ではどうすれば「満足感」が得られるのかと言えば、人それぞれに価値観が違うように一概には言えない。人それぞれの人生で得た性格や体験が違うように、皆期待する満足度は違うのだと。そのために一人づつ交流を図ってその人独自の満足度を模索しなければならない。それが「交流」を重視する点だと力説された。

成瀬さんは元三菱自動車に勤務された技術者で、車のユーザーに対する満足度（CS：Customer‘s　Satisfaction顧客満足度）について研究されていた。それをワイズにも応用しようと考えられていた。今迄の精神的や抽象的な主題やモットーなどが多い中で、具体的で科学的な検証を試みようと目指しておられた。実生活で

は敬虔なクリスチャンであった成瀬さんは自身の満足度を体験するために、古代においてイエス・キリスト自身がヨルダン川でヨハネから洗礼を受けたように、自身もイスラエルまで行ってヨルダン川に身を沈め再洗礼を受けられたとのこと。今では国際紛争で非常に危険な地帯であるが、この頃はまだ巡礼などで聖地を訪れることは出来たそうです。

成瀬理事が帰天されて7年。もし現在成瀬理事が健在でおられたら、EMC事業に対いてどんなアドバイスがいただけたであろうか。その時もっとよく聞いておくのだったと悔まれる。シャワー室からそのまま飛び出してこられたように案外簡単で、「要は裸の付き合いだよ」と笑い飛ばしておられるかも知れません。ただ今思うと当時からナルちゃん（みんなからこう呼ばれていた）は、独り身（メネットを亡くされていた）の身軽さからか、お声が掛かると嫌な顔一つしないで、どこへでも飛んでいって「交流」の輪の中に入っておられたように思います。そんな無理が祟ったのかも知れないと思うと悔まれます。今ナルちゃんの理想は7年の時を経て、牧野篤文次期EMC事業主任によって「満足度」の再考として蘇ろうとしています。ナルちゃんの理想のためにも皆さんどうか、牧野ワイズのご支援をよろしくお願いいたします。そしてナルちゃんの「裸の付き合い」が本当のものだと実感できる時を待っています。

今期皆様からお寄せいただいたご支援の数々に感謝いたしますと共に、最後に新しい仲間の「北京都フロンティアクラブ」、「熊本五福クラブ」、「とやまクラブ」がチャーターする度にお贈りしてきた言葉を、皆様にも贈ります。

「負けた時が終わりなのではない。辞めた時が終わりなのだ。」
第37代アメリカ合衆国大統領　リチャード・ニクソン

日本と中国は時の田中角栄首相と周恩来首相との間で、1972年9月に国交が回復されました。しかし、その半年前の1972年2月に、ニクソン大統領により米中国交回復がなされています。もし米中国交回復がなければ日中国交回復もなかったかもしれません。まさにニクソンなくして田中なしと言えるでしょう。

ニクソン大統領は戦後、アイゼンハウワー大統領の副大統領に甘んじ、若きケネディにも敗れた。しかし、彼はあきらめなかった。ケネディが凶弾に倒れてジョンソンが続いたが、その後見事にリベンジを成し遂げた。彼はケネディらが仕掛けたベトナム戦争から完全撤退を果たし、その後の冷戦の終わりとなる東西の緊張緩和（デ・タント）のきかっけも作った。しかし、その後彼は残念ながらウォーターゲート事件※でニクソン・ショックという経済不安をもたらして、自ら退陣してしまった。戦いに

敗れても生きている限りリベンジは何度でも出来る。チャレンジを諦めてしまったらそれも出来なくなる。彼は、辞めてしまったら全てが終わりなのだという大切なことを教えてくれた。皆さんも健康に留意して、辞めないで元気で若々しく楽しくワイズライフを楽しもうではありませんか。満足感はそんな後にやってくるものなのですよ。ねえ、ナルちゃん！

※ウォーターゲート事件：共和党が民主党本部が入居する「ウォーターゲートビル」に盗聴器を仕掛けた事件。その後この事件は、メリル・ストリープ扮するワシントン・ポストの女発行人が、トルーマン大統領から続くベトナム戦争への関与の秘密を暴露した映画「ペンタゴン・ペーパーズ」（アカデミー賞受賞）が2018年3月に公開されている。

部　名	人 数	部　名	人 数	部　名	人 数
中　部	89	阪和部	119	瀬戸山陰部	53
びわこ部	101	中西部	118	西中国部	72
京都部	513	六甲部	140	九州部	299

西日本区会員数：

（2019年3月末）

1，504名

皆さんへの幸運の贈り物

ノルウェーのスタバンゲルでナルちゃん（成瀬晃三元理事）とご一緒に見た「二重の虹」は珍しい虹で、雨粒がプリズムになって、太陽光が微妙な角度で当たった時にしか現れないものです。英語では「二重の虹」のことをDouble　Rainbowと言って幸運の兆しだそうです。そして上図にあるように、下の虹を「主虹」、上の虹を「副虹」といい、その間隔を「アレキサンダーの暗帯」というそうです。まさにワイズに相応しい虹ではないでしょうか。私が山裾で見た虹はもっと幻想的で美しいものでした。聖書では虹は「神との契約」とか「契約の徴」とも呼ばれて幸運の予兆とされています。（創世記9章16節）　なお、上の虹の写真はスタバンゲルで見た虹ではありません。（インターネット情報より）